

この人に学べ!

株式会社大森工業 代表取締役

森 秀樹 さん



このコーナーでは、ダスキン企業グループ外の人にスポットを当て、その人の仕事への思いや取り組みから経営のヒントを探ります。

“当たり前前のことを続けること” その大切さを教えてもらった30年。

「仕事を紹介してくれる大工さんは一人だけだった」という創業時から年商7億5000万円の企業へと成長した解体メーカ・大森工業。創業以来30年間、減収は一度だけという脅威の成長力はどこからきたのか。「小さくてもキラリと光る会社」を目指してきたという森さんに話を聞いた。

人材育成は子育てと一緒に

朝7時、大森工業の一日は朝礼から始まる。現場ごとに職長さんを先頭にして全メンバーが縦一列に着席。作業の進捗状況、今日のスケジュール、注意事項を対話形式で確認していくが、社長の森さんの表情は非常に厳しい。

「解体現場では、ちょっとした気の緩みが重大事故につながりますから、朝礼での真剣なやり取りで活を入れるんです」。

その後、森さんの話へと続くが、こういった一連の朝礼は解体業では異例だという。テーマは経済や政治からアメリカの軍事問題まで多彩。自分の仕事を世の中とのつながりの中で考えられるようになれば、仕事への意気込みが変わってくる。

ある日のテーマは、建築業法の改正と解体業界への影響。「厳しい時代だが大森工業は『生き残る』ではなく、『勝ち残る』会社になる。全員で頑張ろう」。先ほどとは打って変わり柔和な表情で、一つひとつの言葉を噛んで含めるように話しかける。端から見ても、メンバー全員が一つに結束していくのがわかる。「難しい内容でも、どうせわからないと諦めたらそこまで。社員の可能性は無限、何度も話せばいつかわかります。人材育成は子育てと一緒にではないでしょうか」。

時には幹部社員に話し手の役を突然振ることもある。あたふたするような



株式会社大森工業
(福岡県北九州市)

1976年に創業。いまや地域のトップブランドとしての地位を築き、産業廃棄物の中間処理分野にも本格的に参入。今後は全国展開も視野に入れる。

ら、皆の前でピシッと怒る。そうすると幹部社員たちに「私が社長だったら」と自然と責任感が生まれるという。評価は口コミで広がる。

従来、解体業には「結果オーライ」という意識が強かった。だが森さんは、創業当初から「解体業はトップバッター」と任じている。次に続く施工業者が作業をしやすくすることはもちろん、近隣の理解を得るために工事前の挨拶回り、解体時に出るほこりを抑えるようシートを入念に張り頻繁に散水する、作業の終わりにほこりを掃除する……。「そう、ごく当たり前のことです。でも、これで当社は、皆さんの高い評価をいただいた。一度仕事をした先が、必ず次を紹介してくださったのです。当たり前前のことをきちんとすることの大切さを教えてもらった30年でした」。毎日、現場へ視察に出かけるのが日課の森さん。よく施主さんから「見に来なくていいんじゃない? 皆よくやってるよ」と言われるという。「社員が褒められるのが、何より嬉しいですね」と笑うその顔は、まさに親の顔である。